

## 為替週間展望 = ドル円は底堅い推移が継続か

[ 8月22日からの1週間の展望 ]

週間高低 (カッコ内は日)		8月15日～8月19日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	133.48	136.48(19)	132.56(15)	136.46	+3.04
ユーロ・ドル	1.0256	1.0268(15)	1.0070(19)	1.0084	-0.0175
=====					
国内株・金利 / 米国株・金利					
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	28,930.33	+383.35	日本10年債利回り	0.203	+0.013
ダウ平均株価	33,999.04	+237.99	米10年債利回り	2.882	+0.051

<来週の主要経済統計等>

23日 米7月新築住宅販売件数

独8月製造業PMI速報値、独8月非製造業PMI速報値

ユーロ圏8月製造業PMI速報値、ユーロ圏8月非製造業PMI速報値

英8月製造業PMI速報値、英8月非製造業PMI速報値

米8月製造業PMI速報値、米8月サービス業PMI速報値

24日 米7月耐久財受注速報値

25日 NZ第2四半期小売売上高

独第2四半期国内総生産(GDP)確報値

独8月ifo景況感指数

米新規失業保険申請件数

米第2四半期国内総生産(GDP)改定値

ジャクソンホール会議(25～27日)

26日 英8月ネーションワイド住宅価格

米7月個人所得・支出

米8月ミシガン大学消費者信頼感指数確報値

パウエルFRB議長講演(ジャクソンホール会議)

【前回のレビュー】FRBによる利上げ姿勢は今後も継続するとみられる。ただ、米消費者物価指数の下振れで過度な利上げへも警戒感も後退しており、ドル円大きな崩れは見込みにくいものの、大きく上値を伸ばすのも難しいとみられ、ドル円はもみ合いで推移することになるとした。

【ジャクソンホール会議に注目】

17日に公表された米連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨(7月26～27日開催分)によると、多くの参加者が必要以上に引き締めるリスクがある可能性を認識しており、「ある時点から利上げのペースを鈍化させることが適切」との認識を示した。また、「インフレの圧力が弱まっているという証拠はほとんどなく、引き締め効果の大部分はまだ実感できていない」、「今後の会合で継続的な利上げが適切だ」としている。

一部の参加者からは十分に引き締めの金利水準に達した後は、「しばらくの間金利の据え置きが適切」との見解が出された。なお、「ある時点から利上げペースを鈍化させることが適切」との見解が出されたものの、0.75%の利上げを2回連続で実施しており、これまでの入れのペースの利上げを考慮すると、極めて妥当な見解とみることができるとして、FRBがハト派的とみるのは正しくないと思われる。

10日発表の米消費者物価指数（7月）、11日の米生産者物価指数（7月）、12日の米輸入物価指数（7月）はいずれも事前予想を下回り、物価のピークアウトを感じさせる動きとなった。原油価格が高値から大きく下落していることや米国でのガソリンの小売価格の下落などが背景にある。もっとも物価のピークアウト感が出てきてはいるものの、水準そのものは依然として高い。

米国の経済指標は一部では減速傾向を示している。特に金利水準に左右されやすい住宅関連指標の多くは伸び悩んでいる。7月26日の米新築住宅販売件数（6月）、7月27日の米中古住宅販売制約指数（6月）、8月15日の米NAHB住宅市場指数（8月）、16日の住宅着工件数・建設許可件数（7月）などはいずれも予想を下回る結果となっている。

目先の重要イベントとしては、ワイオミング州ジャクソンホールで、8月25～27日に米カンザスシティ連銀が主催する経済シンポジウム（ジャクソンホール会議）が開催される。今年は3年ぶりに対面で実施される予定となっている。米連邦準備制度理事会（FRB）のパウエル議長が26日に講演を行う予定となっている。

なお、ここで9月以降の利上げペースなどに言及があれば、市場に影響を与える可能性も出てくる。また、FRBによるバランスシートの縮小計画への言及があれば、市場に大きな影響を与える可能性が高まりそうだ。

9月の次のFOMCでは、CME FEDウォッチでは0.50%の利上げ確率は60%程度、0.75%の利上げ確率は40%前後となっている。それまでに米雇用統計、米消費者物価指数ともにもう一度ずつ発表を控えており、実際の利上げ幅は今後の経済指標の動向に左右されそうだ。

FRBによる利上げ姿勢の継続はドル円の下支え要因となる。ただ、米国でのインフレのピークアウト感や景気減速への警戒感からすると、140円乗せを視野に上昇していたような強さはない。こうした中、ドル円は底堅い推移が継続するとみられる。ドル円の目先の予想レンジは、133.00～138.50円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、23日に米7月新築住宅販売件数、米8月製造業PMI速報値、米8月サービス業PMI速報値、24日に米7月耐久財受注速報値、25日に米新規失業保険申請件数、米第2四半期国内総生産（GDP）改定値、26日に米7月個人所得・支出、米8月ミシガン大学消費者信頼感指数確報値などがある。

#### 【ユーロドルは上値の重い動きか】

10日に米消費者物価指数が伸び悩みを見せたことで、ドル売りユーロ買いの動きに傾いた。ユーロドルは1.0368近辺まで上昇したものの、その後は伸び悩みを見せている。その後は一目均衡表の雲などに上値を抑えられて、ユーロドルは軟調な推移を見せている。

ロシアからユーロ圏への天然ガス輸出の件で、ユーロ圏はエネルギーの安全保障が脅かされており、ユーロドルの上値を抑える要因となる。さらにユーロ圏の景気の先行き不透明感は根強く、ユーロドルは上値の重い動きが見込まれる。ユーロドルの目先の予想レンジは、0.9900～1.0350ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、23日に独8月製造業PMI速報値、独8月非製造業PMI速報値、ユーロ圏8月製造業PMI速報値、ユーロ圏8月非製造業PMI速報値、英8月製造業PMI速報値、英8月非製造業PMI速報値、25日にNZ第2四半期小売売上高、独第2四半期国内総生産（GDP）確報値、独8月IFO景況感指数、26日に英8月ネーションワイド住宅価格などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

---

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。